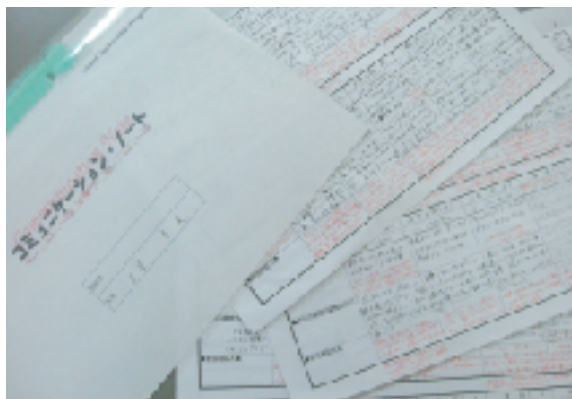


活動名 NPO・NGO ユース・インターン・プログラム (YIP)	団体名	ひろしま市民活動ネットワーク HEART to HEART
	地域	広島県広島市
	代表者	代表 中倉 勇
	支援金額	39万円
活動概要		
<p>高校生～大学院生、もしくはその年代(概ね35歳ぐらいまで)の若者に、「インターン(実習生)」として、一定期間(短期/長期)、市民活動団体の活動に参加してもらうプログラムです。若者のボランティア活動への参加を増やすことで、市民活動の裾野を拡大し、同時に市民活動を経験することによって、若者がやりがいに気づき、自分の将来に活かしてもらう学習の場づくりが目的です。</p> <p>結果として、長期にわたるインターンは1名(約9ヶ月)、短期間のボランティアとして10名の計11名(複数の活動に参加しているため、延べ16名)が、4つの市民活動団体が実施した6つのプロジェクトで活動しました。</p> <p>終了後には感想文をまとめたリーフレットを作成し、現在、配布中です。また、次年度以降も若者のインターン・ボランティア活動を促すため、WEB上で「ちょいボラNEWS」を公開し、若者が自発的に関われる環境を作りました。</p> <p>◆実施時期 実施期間:2011年6月1日～2012年3月31日 場 所:ひろしま市民活動ネットワーク HEART to HEART内 及びイベント会場(3箇所)</p> <p>◆参加人数 長期インターン:30歳代女性1名 ボランティア :30歳代男性10名、20歳代男性1名、女性4名 ※学生2名、フリーター13名、企業人1名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 16名</p>		



インターンと受け入れ担当者をつなぐ「コミュニケーション・ノート」。これが信頼の絆を深めます



インターンの教訓:①他団体を知るには、実際の活動に参加すること!②体力が要る!



東北支援の街頭募金、寒空の下、心はホットでした!



インターン、ボランティアの熱い思いが詰まったリーフレット、是非読んでください!!

◆実施に伴う効果

長期インターンについては、一人のフリーターが社会参画の第一歩を踏み出せるところまで、気持ちを引き上げることができたことはとても大きな効果だといえます。また、受け入れたHEART to HEARTも、これまでの大学生や一般社会人のボランティアやインターンに比べると、時間もかかり手間もかかりましたが、それでも当事者の気持ちに寄り添うことができれば人は育つことを実証できたと感じています。これをもとに、インターンの受け入れ方についてのノウハウを関心あるNPOと共有できる場を設けたいと思います。

また、前項目で述べたように、学生でもフリーターでもインターンやボランティア活動に参加しようとする若者の多くは真面目にきちんと行動できるため、実際に受け入れた団体からの評価が高いです。若者の起用をためらう市民団体は多いと思いますが、この成果が広島のお老舗と言われる市民団体にも活かせるようになれば、団体の存続にもつながると考えます。

今回作成したリーフレットからも読み取れますが、参加した若者たちが各々それなりの達成感を味わっているということも大きな効果の一つです。それには受け入れ団体の準備も大変だったはずですが(HEART to HEARTも大変でした!)、一度受け入れて上手くいけば、次からは受け入れがさらにスムーズに進むであろうと期待しています。

また、大学の先生や職員さんがこのリーフレットをお読みになったうえで、学内に置いてくださっています(現時点で2校)。同時に、若者交流館でも好評で、大量に置いてくださり、次の受け入れ情報を待っておられるとのこと。「このプロジェクトは継続するしかない!」と、大きな手応えを感じています。

◆苦労した点

①インターン受け入れ団体数の伸び悩み

インターンを受け入れる団体を探すのに、まずひと苦労しました。NPOの世界でも「インターン」はだいぶ浸透してきていると思っていますが、それは首都圏もしくはNPOに関するゼミや専門科目を持つ大学が多数存在するエリアに限られていることであり、広島では時期尚早なのかもしれません。受け入れをお願いするにあたり、「インターンとボランティアの違いがわからない」、「ボランティアでも人は育つ」という声もあり、インターンの必要性や重要性を説くことから始めなければいけないということを感じました。

②大学生へのボランティア活動PR不足

大学に参加者募集をお願いしても、学外の活動のため、積極的なPRは難しく、掲示してもらえぬのがやっとなというのが現状です。学生に直接情報が届く方法をもっと探すべきだったと猛省しています。

◆今後の課題・発展の方向性

I) 上記①の解決策

「NPOでインターン」「NPOでインターンを受け入れる」これらを事例などで説明できるものが重要です。同じ説明を何度かするよりは、ツールにまとめるということです。それには、今回のプログラムでわからないと言われた団体をモニターとして、簡単なツールの叩き台をチェックしていただく、という作業を行い、誰にでも効率良く理解していただけるツールを作成しておくことにトライしてみようと思います。

II) 上記②の解決策

今回作成した「リーフレット」が最大の武器になると思います。既に、HEART to HEARTを訪れた学生に配布したところ反応もよく、学内で配布するといって多少持ち帰ってくれました。今後も若者と接触するチャンスのあるところへはこのリーフレットを忘れず持参します。

III) 今後のユース・ボランティア・プログラム(YIP)

このプログラムにより、若年層とNPOをつなぐ仕組みの第一歩はできたと思っていますが、上記にもありますように、反省点もたくさんあります。この課題をクリアしながら、当会によって、若者とNPO(ボランティア・グループ含む)との橋渡しをもっと効率よく、幅広い分野でできればと考えています。とはいえ、大学生は平日広島市内の中心部にはほとんどいませんし、シュウカツ、アルバイト、授業や部活と多忙な日々を送っています。フリーターも若者交流館の利用者が全てではありません。そういう意味では、紙媒体で募集する以上に、WEBやメールを使った募集に力を入れ、どこからでもアクセスできるように整備していきたいと思っています。

◆活動を終えての感想・意見等

ちょっと回り道しかけている若者ひとりを育てるのに、熱く燃えた10ヶ月でした。ですが、「フリーター」とひとりで片付けられている若者の良さに気づくことが多々あり、これまでのボランティア・コーディネーションとはひと味もふた味も違う経験ができました。次年度は助成していただく予定は一切なく、HEART to HEARTの自主事業となりますが、活動したい若者それぞれの希望と個性に合わせた、寄り添い型のコーディネート「売り」の一つにできる市民団体になれるように、他団体の皆さんのご協力も仰ぎながら頑張ります。「市民の力で、若者は育つ!」を証明できる日まで。

マツダ財団の皆さま、今年度はありがとうございました! 良い仕事と良い気づきの場になりました!